

[ホーム](#) > [県政情報・統計](#) > [県政への参加・意見](#) > [広聴の実施結果](#) > [県政に関する世論調査](#) > 第68回県政に関する世論調査報告(令和6年度)

報道発表案件

更新日：令和7(2025)年5月27日

ページ番号：748664

第68回県政に関する世論調査報告(令和6年度)

発表日：令和7年5月27日

総合企画部報道広報課

県では、県政に関する県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とするために世論調査を実施しており、このたび、令和6年度の2回目として行った第68回調査の結果を取りまとめました。

今回は、県民の意識等の経年変化を調査する「県民意識調査」と、7項目の「県政の主要課題」について調査を実施いたしました。調査結果で得られた県民の意識や要望を、今後の施策や各種計画策定の参考とするほか、評価指標として活用してまいります。

ご協力ありがとうございました。

調査の概要

- 調査実施期間：令和6年11月19日から12月13日
- 調査対象：満18歳以上の個人3,000名
- 調査方法：郵送法、オンライン調査法（郵送配付、郵送・オンライン回収）
- 有効回答数：1,504件（50.1%）

概要版

[概要版（PDF：2,658.8KB）](#)

報告書

はしがき

[はしがき（PDF：92.6KB）](#)

目次

[目次（PDF：187.2KB）](#)

調査の概要

[調査の概要（PDF：638.6KB）](#)

調査の結果、調査結果の解説

[1.県民意識調査（PDF：387.1KB）](#)

- (1) 県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと
- (2) お土産や贈答品として選ぶ県産品
- (3) 障害を理由とする差別や偏見の有無
 - (3-1) 障害を理由とする差別や偏見がある場面

2.災害ボランティア等について (PDF : 430.6KB)

- (1) 市民活動団体の活動やボランティア活動への関心度
- (2) 令和5年、令和6年に発生した災害での災害支援活動の参加経験
 - (2-1) 参加した災害支援活動の内容
- (3) 今後の災害支援活動への参加意向

3.消費生活について (PDF : 559.9KB)

- (1) 消費者トラブルにあった際の「安心して相談できる場所」の有無
- (2) 消費者トラブルにあった際の「いつでも相談できる人」の有無
- (3) 悪質商法に対する考え
- (4) 本人または身の周りでの悪質商法被害の発生有無
 - (4-1) 被害にあった方の年代
 - (4-2) 被害の内容
- (5) 消費者教育の機会に対する考え
- (6) 生活必需品の安定的な供給体制や安全性に対する不安の有無
- (7) 買い物をする際の「エシカル消費」の意識の有無

4.有機農業について (PDF : 459.8KB)

- (1) 有機農産物に対するイメージ
- (2) 有機農業により生産される農産物の購入頻度
 - (2-1) 有機農産物購入理由
- (3) 有機農産物の今後の購入意向
- (4) 有機農産物に今後期待すること

5.県民の治安に対する意識と警察に求めることについて (PDF : 508.1KB)

- (1) お住まいの地域の犯罪発生状況
- (2) 自身や身近な人が巻き込まれる危険性に不安を感じる犯罪
- (3) 警察に力を入れて取り締まってほしい犯罪
- (4) 安全で安心できる生活を守っていくために必要なこと

6.働きやすい職場環境づくりについて (PDF : 559.7KB)

- (1) 職場での働きやすさ
 - (1-1) 働きにくいと感じる理由
- (2) 事業者の取組で重要だと思うこと
- (3) ハラスメントの認知度
- (4) ハラスメント防止に向けた取組で重要だと思うこと

7.困難な問題を抱える女性への支援について (PDF : 463.4KB)

- (1) 「千葉県困難な問題を抱える女性支援基本計画」の認知度
- (2) 困難な問題を抱えた際の相談先
 - (2-1) 困難な問題について相談しない理由
- (3) DV被害等にあった場合のシェルター入所へのためらいの有無

- (4) シェルターに入所することをためらう理由
- (5) 困難な問題を抱える女性への行政の支援で必要なこと

8.地域リハビリテーションについて (PDF : 507.3KB)

- (1) 「リハビリテーション」の言葉のイメージ
- (2) 「社会的な障害（バリア）」の増減
- (3) ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度
- (4) 障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無
 - (4-1) 災害時の不安や困りごとの相談先

9.自由回答 (PDF : 455KB)

付属資料

(付属資料) 調査票および単純集計結果 (PDF : 1,688.2KB)

報告書一式ダウンロード

第68回県政に関する世論調査報告書 (ZIP : 3,657.8KB)

(容量が大きいため、デスクトップに保存してから開いてください。)

データ

調査集計表のページへ

各設問ごとに地域別や性年代別等、属性ごとの回答率を掲載しています。

(参考) 令和5年度 第66回県政に関する世論調査の主な活用例について

県の諸施策・事業等への主な活用状況をまとめましたので、お知らせします。

令和5年度 第66回県政に関する世論調査の主な活用例について (PDF : 602.4KB)

お問い合わせ

所属課室：総合企画部報道広報課広聴室

電話番号：043-223-2469

ファックス番号：043-227-3613

メールでお問い合わせ

千葉県庁

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

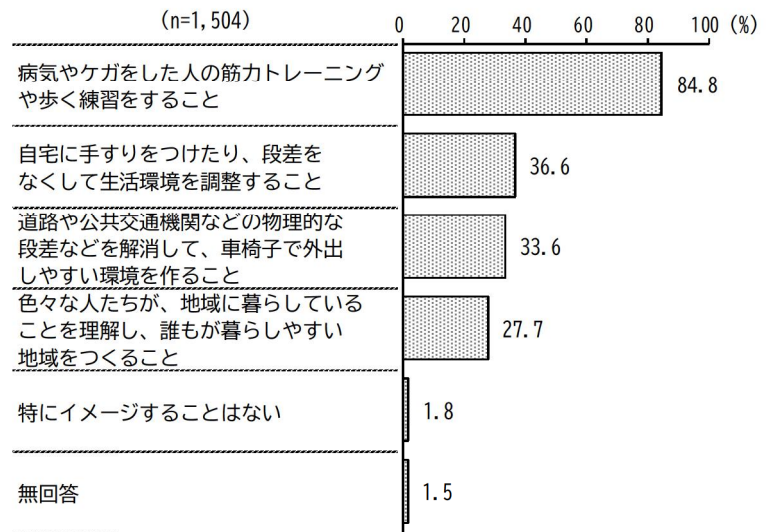
電話番号：043-223-2110（代表）

法人番号：4000020120006

(1)「リハビリテーション」の言葉のイメージ

(複数回答:いくつでも)

「リハビリテーション」の言葉のイメージを聞いたところ、「病気やケガをした人の筋力トレーニングや歩く練習をすること」(84.8%)が8割台半ばで最も高く、以下、「自宅に手すりをつけたり、段差をなくして生活環境を調整すること」(36.6%)、「道路や公共交通機関などの物理的な段差などを解消して、車椅子で外出しやすい環境を作ること」(33.6%)、「色々な人たちが、地域に暮らしていることを理解し、誰もが暮らしやすい地域をつくること」(27.7%)が続く。

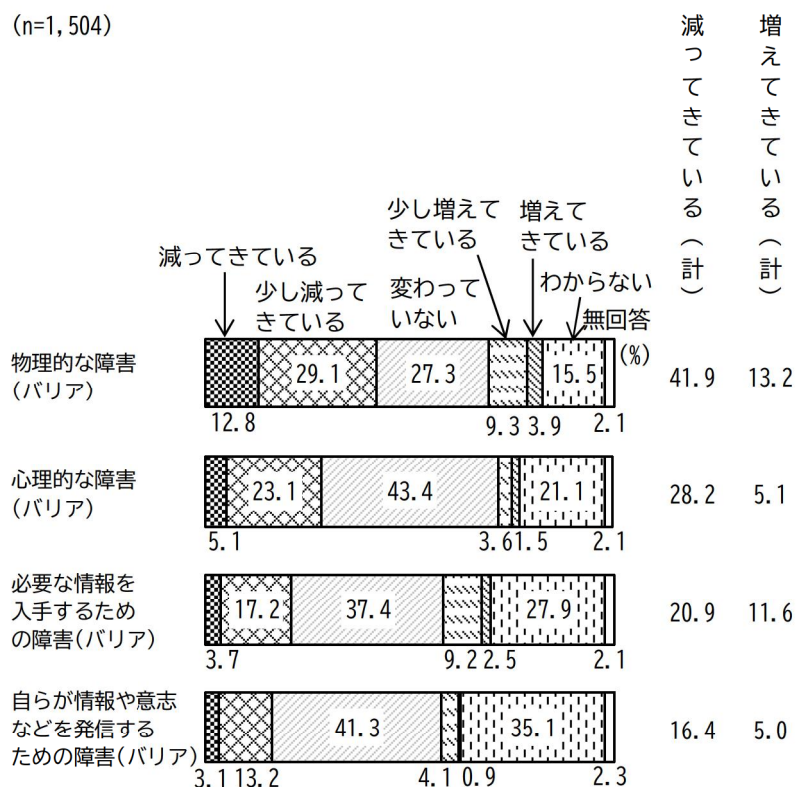


(2)「社会的な障害(バリア)」の増減

「社会的な障害(バリア)」の4項目について、それぞれの増減を聞いたところ、「減ってきている」と「少し減ってきている」を合わせた『減ってきている(計)』が最も高いのは、「物理的な障害(バリア)」(41.9%)が4割を超え、以下、「心理的な障害(バリア)」(28.2%)、「必要な情報を入手するための障害(バリア)」(20.9%)が続く。

一方、「少し増えてきている」と「増えてきている」を合わせた『増えてきている(計)』が最も高いのは、「物理的な障害(バリア)」(13.2%)が1割を超え、以下、「必要な情報を入手するための障害(バリア)」(11.6%)、「心理的な障害(バリア)」(5.1%)が続く。

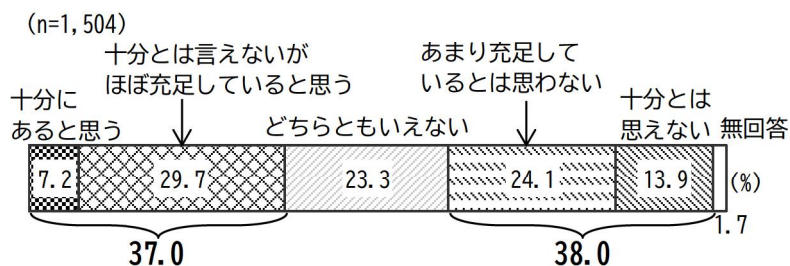
(n=1,504)



(3)ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度

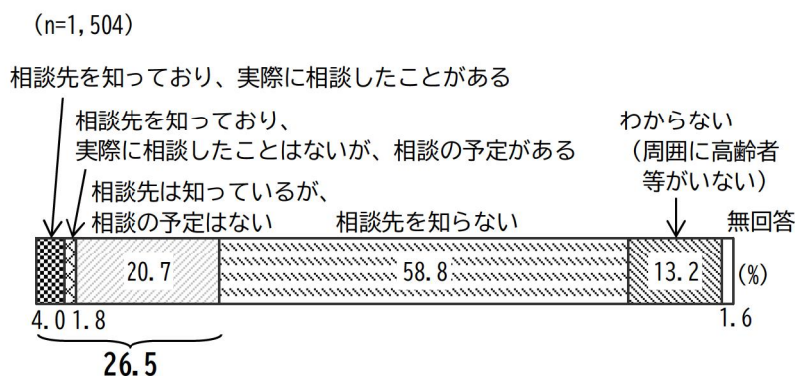
ケガや病気の際にリハビリを受けられる医療機関の充足度を聞いたところ、「十分に思うと思う」(7.2%)と「十分とは言えないがほぼ充足していると思う」(29.7%)を合わせた『充足している(計)』(37.0%)が約4割となっている。

一方、「あまり充足しているとは思わない」(24.1%)と「十分とは思えない」(13.9%)を合わせた『充足していない(計)』(38.0%)は約4割となっている。



(4)障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無

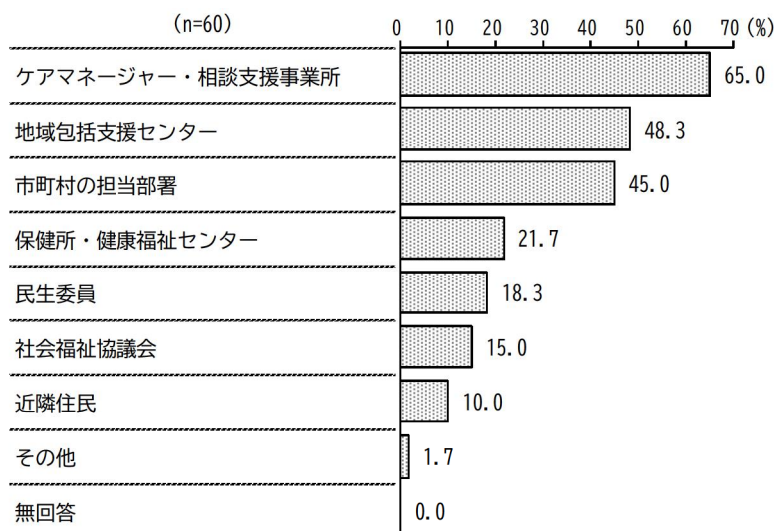
障害のある人や高齢者の相談場所、相談の有無を聞いたところ、「相談先を知っており、実際に相談したことがある」(4.0%)、「相談先を知っており、実際に相談したことはないが、相談の予定がある」(1.8%)、「相談先は知っているが、相談の予定はない」(20.7%)の3つを合わせた『相談先を知っている(計)』(26.5%)が2割台半ばとなっている。



(4-1)災害時の不安や困りごとの相談先

(複数回答:いくつでも)

災害時の不安や困りごとの相談先を聞いたところ、「ケアマネジャー・相談支援事業所」(65.0%)が6割台半ばで最も高く、以下、「地域包括支援センター」(48.3%)、「市町村の担当部署」(45.0%)、「保健所・健康福祉センター」(21.7%)が続く。



「地域リハビリテーションについて」の自由回答(抜粋)

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、87人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「地域リハビリテーションについて」の自由回答（抜粋）

- 必要な情報にたどり着くことが健常者にとっても困難になっていると感じるくらい制度が複雑で、凄い数の申請作業をしなくてはいけない。家族のことでやっているが、自分の時は誰がやってくれるのか。無理だなあと思う。
(男性、60～64歳、東葛飾地域)
- 地域リハビリテーションという言葉は初めて知った。高齢者なら尚更知らない人が多いと思う。まずは全世代向けの情報発信の仕方を見直してほしい。
(女性、40代、山武地域)
- 相談するには信頼が必要です。各相談場所／窓口がどのような人員が配置され、どのような相談／改善実績があるかを発信していただければありがたいと思います。
(男性、65～69歳、葛南地域)
- 情報が少ないように感じるので、ポスターや情報紙など2次元コードで知れるようにして頂きたい。社会的な障害（バリア）のどこがどのように変わったなど、減っていく姿を目で確認できると、意識が変わっていくと思う。
(女性、40代、千葉地域)
- 高齢化が進んでいるので、お年寄りの方が気軽にできるリハビリ、相談場所を増やしてほしい。又、あるのであれば広報等に掲載して頂ければ、高齢者の方々に伝わると 생각합니다。
(女性、50代、印旛地域)
- 近年都市部では都市開発によりバリアフリーは増えて行く一方、過疎化した地域で暮らす方々の環境整備の落差が激しいと思う。
(女性、20代、君津地域)
- リハビリが必要だと考えた時に、とりあえずの相談窓口を1本にして周知させ、その窓口からケース毎に振り分けるといった仕組みのほうが、利用者には分かりやすいのではないのでしょうか？
(男性、60～64歳、印旛地域)
- よくわかりませんが、今の世の中は健康な人の立場で生活するようになっていると思うので、障害をもっている人と共に行動して、改善を要する所など障害者の目線で関係者が理解してほしい。
(女性、70～74歳、葛南地域)
- バリアフリー化などの設備改善はどうしても時間や予算がかかること、利用者が極めて少ない等で改善が難しく対応する側（事業者）が困難な場合があることを広く周知してほしい。
(男性、40代、葛南地域)
- 『地域リハビリテーション』という言葉は内容が伝わりにくいと思う。
(男性、65～69歳、東葛飾地域)